令和４年度の学校評価

本年度の重点目標	(1) ニーズに応じた教育内容の充実 (2) キャリア教育の充実 (3) 視覚障害教育の専門性の向上 (4) 相談体制の充実 (5) 関係機関との連携 (6) 防犯・防災計画の整備 (7) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
幼稚部	・自分の気持ちを相手に伝える力を育てる。	・幼児の気持ちを受け止め、幼児の感情を言葉にしたり、伝え方の模範を示したりする。絵本を通して、様々な言葉や表現に触れていく。	・幼児それぞれの発達段階に合ったねらいを明確にして指導する。
小学部	・自立活動や合わせた指導の学習内容の検討を通して、視覚障害教育の専門性を高める。	・墨字・点字の読み速度、手先の巧緻性（ADL）の向上を目指したケース会や研修を実施する。	・読み速度の記録を定期的に取り、指導に生かす。ADL の指導について事例を共有し、指導法を検討する。
		・日常生活の指導と各教科の内容を関連付けた単元ごとの指導計画を見直し、作成する。	・昨年度作成した各教科の目標・内容一覧表を参考にしながら、教科との関連付けを行っていく。
中学部	・生徒一人一人の視覚障害の状況や実態に応じた学習指導の充実を図るとともに視覚障害教育の専門性を高める	・生徒一人一人の実態について職員間で共通認識をもって指導に当たる。	・個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用したり、部会等で生徒情報を共有したりする。
		・ICT 機器を活用した授業実践や個に応じた学習を進めるために必要な教材作成に取り組む。	・Teams 等を活用し、業務の効率化を図り、ゆとりをもって授業準備等を行うことができるようにする。
高等部	・新学習指導要領に基づいたキャリア教育の推進	・卒業後を見据え、一人一人のもてる力を伸ばし、学力、生活力と職業能力を養う。	・個々の実態やニーズを的確に捉え、幅広い実態の生徒に対応できるよう関係機関と綿密な連携を図りながら、必要な体験活動や実習を行う。
	・授業力・専門性の向上	・生徒一人一人の障害の状態や学びの特性に配慮しながら、必要な指導課題を考え、効果的な授業づくりに努める。	・生徒個々の学習状況や生活状況を職員間で共有することで、より効果的な指導を目指す。
教務部	・授業力の向上を目指すとともに、合理的配慮を考慮した諸帳簿等を作成する。	・授業研修の機会を通して、幼児児童生徒個々の視覚特性と発達段階に即した授業力の向上を目指す。 ・ＧＩＧＡスクール構想における「ＩＣＴ活用」に向けた取組を継続し、授業に ICT 機器を利活用した事例を周知する。 ・紙媒体の様式をデータ化したり、入力シートと出力シートを分けたりすることで、表形式の諸帳簿を入力しやすくなるように工夫する。	・幼児児童生徒の実態（困り感）を踏まえ、視覚特性と発達段階双方の視点で指導・支援できるようにする。 ・ＩＣＴ支援部と連携し、昨年度の取組で得た知見を周知し、指導に役立てられるようにする。 ・業務の効率化を目指し、どの職員も入力・出力しやすい方法を検討する。

ＩＣＴ支援部	・ICT 機器の利用推進	・児童生徒保護者、および職員間でＩＣＴ機器を活用した情報の共有を図る。	・ＧＩＧＡスクール端末を活用した、各課程に応じた学習手段の獲得を支援する。 ・コミュニケーションツールの研修を実施し、教員のスキル向上を計画する。
		・書類の電子化による紙資料の削減に努める。	・保護者向けアンケートをスマートフォンなどからも回答できるようにする。 ・会議資料のペーパーレス化等を計画する。
	・読書活動の推進	・図書室の本や棚を整理し、目的の本を探しやすい環境を整える。	・古い本や、利用が見込めない本を処分し、より新しい本の紹介に重点を置く。
教育支援部	・地域支援活動の充実	・地域の視覚障害教育担当者の支援力向上を図り、盲学校と地域の学校間で連携して支援ができるような関係づくりをする。	・相談活動や通級指導にオンラインを取り入れる工夫をしたり、本校主催の研修会を地域に向けて積極的にアピールしたりして、これまで以上に地域の先生方が視覚障害教育に深く関わることができる環境を作る。
		・本校で行っている地域支援に対する校内職員の理解と協力が得られるよう、地域支援活動について啓蒙活動を行う。	・本校の地域支援の現状や課題を校内職員に知ってもらうことを目的に、教育支援部が行っている地域支援活動について記載した「地域支援だより」の作成・配布を検討する。
進路指導部	・児童生徒、保護者、職員が目標（ビジョン）を共有し、キャリア教育・就労支援の充実を目指す。	・昨年度実施できなかった保護者対象の座談会の実施に加え、就労支援のための講演企画等を行う。それによって、それぞれの発達段階に応じた就労に向けたキャリア形成に必要な力について保護者・職員が共有して取り組めるようにする。 ・幼児・児童・生徒の就労やキャリア形成に向けた指導に役立つ参考情報を職員向けに発信し、キャリア教育についての啓発を行う。	・家庭が主体的に我が子のキャリア形成に向き合うことができるよう計画する。また、抽象的な理解ではなく、具体的にアクションを起こせるような目標や行動を提示できるよう配慮する。
生徒指導部	・問題行動やいじめ等の早期発見、早期対応	・各学部に加え、寄宿舎や保健室から生徒情報を集め、生徒指導部会で生徒情報の交換を行い、生徒指導上の問題点について共通理解を図る。	・必要に応じて、指導体制や支援体制を整えられるように、管理職や各部、分掌、担任、関係機関と連携をとる。
	・防犯・防災への意識向上と体制の整備充実	・火災や地震に対する防災マニュアルを作成し、職員間ですることで災害時に迅速な対応ができるようにする。	・管理会社に意見を求めたり、防災マニュアルに沿って、避難訓練を行ったりすることで実状に合ったマニュアルに変更する。
保健体育部	・感染症の正しい理解と予防対策の周知徹底	・最近の情報を適宜発信し、幼児児童生徒職員の正しい理解と予防意識の向上を図り、対応できるようにする。 ・学校医や薬剤師等に相談し、適切な対応、実施をする。	・日々の連絡や緊急時対応訓練等、現職研修を通して対応を再確認し、対応できるように周知する。 ・担任、保護者間で連絡を密にとり、情報収集を行い、対応の検討に反映させる。

	・生活習慣病予防に向けた生活改善指導の実施	・健康相談を随時行い、保健だよりをはじめとする配付物や掲示物による啓発活動を行う。	・幼児児童生徒本人が運動習慣や食生活等を意識した生活が送れるようにする。
	・安心安全な給食の提供	・幼児児童生徒及び職員の給食をはじめとする食への安全意識の向上を図る。	・アレルギー対応幼児児童生徒に対し、適切な配膳等を適宜行う。 ・食缶の運搬時、配膳時において適切な服装の着用を徹底する。
広報・渉外部	・業務の省力化及び効率化を目指す。	・担当している業務について、分掌内での非効率的な点を探り、検討、改善する。	・ＰＴＡ関連の業務を、PTA 役員等と緊密に連携し、コロナ下でも安全に行えるように工夫すると共に、できる限り効率化を図る。
寮務部	・寄宿舎生活支援の向上	・ＡＤＬチェックリストを用いて課題を把握するとともに、舎生の実態に応じた寄宿舎支援記録を作成する。また、共通理解を図りながら一貫性のある支援、指導に努める。	・担任や関係職員、保護者と連携を図り、家庭、学校、寄宿舎で一貫した生活支援ができるよう努める。
	・緊急対応や防犯・防災体制の充実	・緊急時対応訓練や防犯・防災訓練を実施するとともに、職員研修も行い、職員の意識向上を図る。	・緊急時や災害時の対応について共通理解を図るとともに、日々の業務の中で危機管理意識をもつようにする。
理療部	・理療分野における就職先の拡充	・卒業学年の生徒はもちろん、在校学年の就職希望をも踏まえて、企業や事業所の情報を収集し、多様な方法で理療師を雇用することの有効性を伝えていく。	・企業や事業所が求めている情報を、文書、電話、訪問などの手段を用いて伝え、本校生徒の知識や技能についても深い理解を得られるようにする。
学校関係者評価を実施する主な項目		・キャリア教育の充実 ・相談体制の充実 ・視覚障害教育の専門性の向上 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	